

# 人は人を浴びて人に育つ

～ふるさと形原を愛する形中生～



## 蒲郡三高ウォッチング



高校生による学校紹介



充実した展示



高校生へ質問タイム

8/22、中学2年生を対象に、市民会館で『蒲郡三高ウォッチング』が開催されました。蒲郡の高校は、普通科・総合学科・水産学科と様々な学科があります。しかし、そこでどんなことを勉強しているのか、その後どんな進路に進んでいるのかなど、中学生には、知らないことが多いです。この会で地元の高校の魅力を知り、自分の将来について考えるきっかけになってくれることを期待します。

今年から三高校がブースに分かれる形になったので、高校生に直接質問できる座談会が設定されていたり、展示内容が充実していたりしました。本校から参加した約50名のみなさんも高校をより身近に感じる事ができたのではないのでしょうか。

## 秋は形原を味わおう

生徒のみなさん、夏休みは楽しかったですか？「休みは終わったけど、学校も楽しい。」とみなさんに思ってもらえるように、形原の魅力をいっぱい体験できる企画を考えました。秋といえば、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、行楽の秋など、結びつく言葉はたくさんあります。お米や果物が実る秋は、快適に過ごしやすい季節です。楽しく、充実した学校生活をみんなで作っていきましょう。

9月13日

☆1年「地元の方に話を聴く会」

※あじさい、ロープ、三河湾、赤い電車、お祭り

9月14日～15日

☆3年「西浦海岸で海遊び」

※サップ、釣り、アート、BBQ、藍染め

10月19日～26日

☆2.3年「地元の魚を食べる会」

※魚をさばいて、煮て、食べる

## 3年 壁谷有乃さん 少年の主張県大会 優秀賞・共感賞

8/23、少年の主張愛知県大会が、刈谷市総合文化センターで開催されました。259校、39,717名の応募の中から選ばれた14名の代表が、それぞれの意見を力強く発表しました。その大会で、壁谷有乃さん(3年)が『優秀賞』に輝きました。また、会場で聞いていた中学生が一番心に響いた発表者に贈られる『共感賞』にも選ばれました。すごいですね。

### 自分を好きでいるために

「最近の子どもは自己肯定感が低い。」学校でだったかテレビでだったか、どこからか耳にしたことのある言葉。私自身も実感している言葉だ。例えばこんなことがあった。学校での美術の時間、クラスで風景画を描いていた。私はある友達の絵を「すごい上手な絵だね。」とほめた。するとその友達は、「全然上手じゃないよ。」と言っていた。自信を持って上手な絵だと言っていい作品のはずだったのに。他にも私自身、学校でのアンケートで、「自分に良い所があると思いますか。」、「自分のことは好きですか。」、「はい、そう思います。」に丸をつけるのは躊躇する。周りの友達も自分の長所をしゃべる時よりも、短所をしゃべるときの方が流暢にしゃべっている。

なぜだろうか。なぜ自分のことを否定するような会話はありふれているのに、肯定する会話はあふれていないのだろうか。私が小学校の頃、友達同士でよくこんな会話が盛り上がった。「誰々がさあ、自慢ばかりしてくるんだけど、うざくない。」、「ほんとね。そんなに自分のこと好きなの。」これは、自分の自慢をしてきた友達を嘲笑う会話だった。私も誰かの自慢話ばかり聞いていたいとは思わない。だけど、不思議だった。なぜ、自分の良い所を話ただけで、馬鹿にされてしまうのだろうか。別に悪いことをしているわけではないのに。母は言っていた。「その子のことがうらやましいから、そういうことを言うてしまうんだよ。」、私はそうとは思わなかった。自慢とは反対に、謙遜という言葉がある。大人になればなるほど、よく使うようになるらしい。日本では特に、自分のことを謙遜し、謙虚な姿でいることが素晴らしいとも言われている。私も謙遜できる大人はかっこいいと思う。例えばアスリート。様々な大会で良い結果を残した多くのアスリートは、「これからもより良い結果を残せるように邁進してまいります。」と語り、謙虚な姿を見せることが多い。アスリートだけでなく、学校の先生や親、友達までも、よく自分のことを謙遜している。謙遜は礼儀のようなものなのかもしれない。

私は考えた。自己肯定感が低いのはなぜだろうか。自慢をしてきた子を馬鹿にしてしまうのは、その子のことがうらやましいからなのか。私は環境が原因だと思う。先ほど言った、謙遜は礼儀のようなもの。謙遜をしている人を見ると無意識のうちに礼儀正しい人と認識している人も多いと思う。だけど、謙遜ばかりしては、本当の自分をよみしてくれる人は減ってしまうと思う。だからこそ、私は謙遜ばかりしてはいたくない。謙遜ばかりするよりも、沢山の人が自分の良い所を言い合い、褒め合える世界の方がきっと鮮やかで自由だと思う。私はある友達とよく、自分の良い所を自慢し合い、褒め合っている。そんな時間が何よりも楽しいし、そんな関係に誇りを持っている。

みなさんは今、ありのままの自分をどれだけ愛していますか。そして、周りの仲間にごどれだけ愛されていますか。きっと、自分を好きになるためには、自分を好きでいてくれる本当の仲間が必要だと思う。仲間が自分から良い所を話してくれる、そんな環境を築くことが、自己肯定感の向上への第一歩だ。

